

川根本町 図書室だより

12月

2021年12月号

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号: 川根本町内7コース
TEL: 0547-59-3106(文化会館)
TEL: 0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間: 午前9時～午後5時
- ☆ 休室日: 月曜日・第3日曜日(19日)・年末年始(28日～1/4日)
- ☆ やまびこ号巡回コースは



川根フォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新 着 図 書

『心と体がラクになる読書セラピー』

寺田真理子 著 ディスカヴァー・トゥエンティワン

心を整え、力をくれる新しい
読書法のすすめ

【心理】文



本に癒されたり励まされたりした経験、ありませんか？
実はそれも「読書セラピー」なんです。
心を整え、力をくれる新しい読書法のすすめ。読書セラピーとは何かから、本の選び方・読み方までを解説します。ブックガイド付き。

『「育ちのいい人」が使っている添えるだけの1行文』

井垣利英 著 PHP研究所

普段遣いの言葉のほうが
思いは伝わる

【手紙】山



「育ちのいい人」の手紙とは、「相手のことを思いやり、幸せな気持ちにする言葉」が書かれているもの。季節にふさわしい言葉や贈り物に添える言葉、お祝いの言葉など、様々なシーンで実際に使える文例や言葉を多数紹介する。

『全国から患者が集まる耳鼻科医のめまい・ふらつきの治し方』

新井基洋 著 毎日が発見

めまいは安静にしていると、
慢性化する

【健康】文

めまいは寝ていても治りません！
平衡機能の左右差によるめまいは、小脳を鍛えることで治せます。めまい専門医が、自宅のできる「めまい改善訓練」を紹介しします。めまい疾患とストレスとの関わりも解説。



『スマホで防災』

宮下由多加 著 ジャムハウス

家族も自分も守る！

【防災】山

- ・「緊急地震速報」を受信する
- ・帰宅ルートを確認する
- ・家族や友人の安否情報を確認する等、スマホは身近な防災ツールとはいえ、操作に不慣れで、うまく情報を入力できない人が多くいることも事実。本書はスマホの基本操作をはじめ、手順に沿った画面を入れて、わかりやすく丁寧に解説しています。



文化会館図書室所蔵

山村開発センター図書室所蔵

●『ペッパーズ・ゴースト』伊坂幸太郎 著 朝日新聞出版
中学国語教師の檀は、ある条件下で他人の明日が少しでも見える特殊能力を持つ。彼は生徒から、奇妙なコンビが暴れ回る小説原稿を渡される。小説内の2人組「ネコジコハンター」とは？

小説

●『涅槃上/下』垣根涼介著朝日新聞出版
豪商・阿部善定は、幼い八郎の中に非凡さを見出し没落した宇喜多家一家を引き取る。町家で育った八郎は武門の子でありながら町や商人の暮らしに強く惹かれる。戦国史上最悪と呼ばれた男、宇喜多直家の素顔。

小説

●『居酒屋「一服亭」の四季』東川篤哉 著 講談社
鎌倉の路地裏でひっそりと営まれる居酒屋「一服亭」。人見知りな美人女将は、実はとんでもない名探偵だった！ユーモアミステリー。

小説

●『母親からの小包はなぜこんなにダサイのか』原田ひ香著 中央公論新社
業者から買った野菜を「実家から」と偽る女性、父が毎年受け取っていた小包の謎、そして、母から届いた最後の荷物…。温かな想いが詰まった6つの物語。

小説

●『トリカゴ』辻堂ゆめ 著 東京創元社
殺人未遂事件の容疑者は無戸籍だった。蒲田署の刑事・森垣里穂子は、捜査によって彼らが隠れ住むコミュニティを壊してしまうのではと苦悩する。だが、かつて日本中を震撼させた“鳥籠事件”との共通点に気づき…。

小説

●『ブルースRed』桜木紫乃 著 文藝春秋
釧路の街を牛耳る影山莉菜は、父の血をひく青年を後継者として育て、官僚から代議士への道を歩ませようとしていた。重い十字架を背負った女が、幾度もの裏切りの果てに辿り着いた終焉の地とは。

小説

●『民王シベリアの陰謀』池井戸潤 著 KADOKAWA
高西環境大臣が人を凶暴化させる謎のウイルスに感染した。陰謀論者の台頭で、危機に陥る第二次武藤泰山内閣。ウイルスはどこからやってきたのか。泰山は国民を救うべく…。

小説

●『翼の翼』朝比奈あすか 著 光文社
専業主婦・円佳の息子、小学2年生の翼が難関中学の受験に挑戦することに。塾に、ライバルに、保護者たちに、噂に、円佳は振り回され…。過熱する親の気持ちに寄り添い、圧倒的なリアリティで描いた、凄絶な家族小説。

小説

●『オニのサラリーマン じごく・ごらく運動会』富安陽子 作 大島妙子 絵 福音館書店
地獄勤めのオニのお父ちゃん大奮闘の絵本シリーズ「オニのサラリーマン」第4弾は、運動会のお話です。



●『てがでかこちゃん』白石一文 作 谷川千佳 絵 岩崎書店
保育園で手がでかいは、でかこちゃんひとりだけ。手がでかくて良かったこと、いっぱいあるけれど、「へんなのー」という子が現れて…。「みんなと違ってあたりまえ」を元気に描く。



おすすめ!



(山村開発センター所蔵)

『隠居すごろく』西條奈加 著

趣味など一切もたず仕事一辺倒、商いは手堅く店の表奥ともに節約を心掛け、自身も贅沢を戒めた、そんな糸間屋嶋屋の六代目徳兵衛が還暦をすぎ、隠居を宣言するところから物語が始まります。

嶋屋からそう遠くない所にかまえた隠居家に八歳の孫の千代太が通ってくるようになり、犬や猫や人までも拾ってくる厄介事にうんざりしながらも、培ってきた商いのノウハウで解決していく様子が痛快です。

憧れていた釣りやら俳句やらの風流な暮らしにはちっとも馴染めず、結局商いが道楽であり生きがいと知り、第二の人生はまわりの人たちのために商いを展開していく徳兵衛。そして孫の千代太を通してお金やのれんよりも大切なものに気づかされていく徳兵衛。そんな徳兵衛の生き方が、とても理想的な老後に思えてなりません。

図書室スタッフH